

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻 修士課程《一般》	二〇二六年度 秋季	試験時間
専門科目			一一〇分

【注意】

【Ⅰ】 【Ⅱ】 【Ⅲ】 の解答は、それぞれ別の解答用紙に記述すること。  
そしてその際、必ず問題番号を冒頭に記載すること。

【Ⅰ】あなたが研究（もしくは創作活動）をすすめるに当たって、重視する先行研究・評論（もしくは先行作品）を挙げ、その意義を説明しなさい。

【Ⅱ】つぎのア～セの中から三つを選び、知るところを述べなさい。

- ア 防人歌
- イ 稗田阿礼
- ウ 『拾遺和歌集』
- エ 『浜松中納言物語』
- オ 『とほすかたり』
- カ 狂言
- キ 八文字屋本
- ク 地本
- ケ 『幻住庵記』
- コ 平面描写
- サ 石川淳
- シ 雑誌『新青年』
- ス フェルディナン・ド・ソシユール
- セ 形容動詞

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	人文科学研究科 日本文学専攻 修士課程《一般》	二〇二六年度 秋季	試験時間
専門科目			一二〇分

【注意】

【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅲ】の解答は、それぞれ別の解答用紙に記述すること。  
そしてその際、必ず問題番号を冒頭に記載すること。

【Ⅲ】つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

資季すけすみの大納言入道とかや聞えける人、具氏ともぢの宰相中将にあひて、「「わぬしの問はれんほどのこと、何事なりとも答へ申さざらんや」と言はれければ、具氏、「いかゞ侍らん」と申されけるを、「さらばあらがひ給へ」といはれて、「「はかぐしきことは、片端も学び知り侍らねば、尋ね申すまでもなし、何となきそらごとの中に、おぼつかなきことをこそ問ひ奉らめ」と申されけり。「ましてこゝもとのあさきことは、何事なりとも明らめ申さん」といはれければ、近習の人々、女房なども「「興あるあらがひなりと同じくは、御前にて争はるべし。負けたらん人は、供御くごをまうけらるべし」と定めて、御前にて召し合はせられたりけるに、具氏、「「幼くより聞き習ひ侍れど、その心知らぬこと侍り。「むまのきつりやう、きつにのをか、なかくほれいり、くれんとう」と申すことは、いかなる心にか侍らん、承らん」と申されけるに、大納言入道、はたとつまりて、「これはそらごとなれば、言ふにも足らず」といはれけるを、「もとより深き道は知り侍らず。そらごを尋ね奉らんと定め申しつ」と申されければ、大納言入道、負になりて、所課いかめしくせられたりけるとぞ。

〔徒然草〕第一三五段より）

注 \*あらがひ 挑戦し

問一 傍線部1を現代語訳しなさい。

問二 傍線部2「はかぐしきこと」について、

(1) 同じ内容を指す語句を本文から抜き出しなさい。

(2) どのような意味か説明しなさい。

問三 傍線部3「興あるあらがひなり」と周囲の人々が言ったのはなぜだと考えられるか、説明しなさい。

問四 二重傍線部「所課」は文字通り「課されたこと」であるが、ここでは何か、説明しなさい。

問五 本話のおもしろさを説明しなさい。